



I-OWA マンスリー・セミナーより 「なぜ、いまマネー教育なのか」

講演: 岡本 和久

よく「お金は額に汗して手にすることに意味がある、投資などによって儲けるのはけしからん」というようなことを言う人がいます。額に汗して稼ぐのは間違いないのですが、投資によってもまた、価値が創造されていくのです。それなのに投資は悪いこと、お金は汚い、そういう風潮が出来てしまっている。これまで7~8年にわたり、中学・高校で、お金や投資について話す出張授業という活動が続けていますが、その際に行うアンケート結果にも、この風潮は現れており、ほぼ一貫して「おカネは汚いもの」、「お金持ちは悪い人」というイメージを子供たちが持っています。

子供たちにお金の話をするにあたって、何か資料を用意しようということで、今回、画家のムムリクさんの協力を得て作成したのが、ピギーちゃんの紙芝居です。ピギーちゃんは、今年4月から当社で輸入販売を始めた、米国マネー・サビー・ジェネレーション社の子ぶたのマネー教育用の教材です。大いに活用して、「お金は感謝のしるし、感謝と一緒に世の中を旅している」ということを伝えて、お金に対する誤解を解いていきたいと思えます。



ピギーちゃんには、お金を入れるための「4つの口」があります。まず初めは「つかう=Spend」。今欲しいもの、たとえば一枚の板チョコを買う。そこには、原料のカカオが採れるガーナやブラジルの農園で働く人、日本のチョコレート工場で働く人、売っているコンビニの店員さん、トラックや船を動かす人など、チョコレートができるまでの全ての人たちの生活費が入っています。みんなに美味しいチョコレートを食べてもらいたいという気持ちがお金によって集められチョコレートになっているのです。

次に「ためる=Save」。ここでは、今、我慢することによって喜びが増えていくという「時間価値」について学びます。そしてお金が貯まったら銀行に口座を開く。そこで銀行の仕組みについても学んでもらうわけです。少し先に大きな買い物をするために預金をする。そのお金が、ビジネスでお金



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

が必要な人やマイホームを持ちたいという人に、銀行を通して貸し出される。金利はその時、「お金を使わせてもらってありがとう」という感謝の気持ちとして払われるのです。

「ふやす」は投資(Invest)です。ずっと将来の夢を実現するためにお金を殖やしたい。それは今すぐ必要なお金ではありません。一方で、今すぐおカネを必要としている人もいます。そういう人におカネを使わせてあげ、その人がビジネスを大きく育て、世の中の為になることをします。そして将来、大きくなった企業が「ありがとう」という気持ちを込め、収益の一部とともに投資資金を戻してくれる。これが投資の本質的なスキームです。株式というものは、そのためにあるのです。

最後は「ゆずる」=「Donate」。人が喜んでくれれば自分も嬉しいでしょう。お金はそのものに価値があるわけではなくて、モノと交換して、そのモノが喜びを与えてくれるから価値があるのです。ならばモノを介在させないで、直接喜びを得たっていいじゃないか、ということになります。人にあげると人が喜び、自分も嬉しい。それも一つのリターンです。私は、お金を超えて喜びを得るという意味で、「超マネー・リターン」とか「超マネー投資」と言っています。

講演では、紙芝居を使った「お金の話」の詳しい内容、子供たちへの様々なメッセージ、子供たちからの反応などお話いただきました。そのほか、マネー・サビー・ジェネレーション社との出会い、その理念や活動、日本フィランソロピー協会のサービス・ラーニング・プロジェクトやミュージック・セキュリティーズの被災地応援ファンドについても伺いました。更に、画家ムムリクさんのご紹介と共に、色々な作品を見せていただきました。